

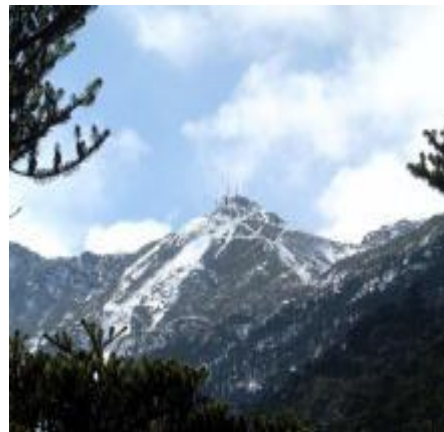


中国で最も美しい尼寺

中国の雲南省は境は国の最西南位置し、ベトナム、ラオス、ミャンマーに接しています。雲南大理蒼山の雪景色はスイスのアルプスに負けないほど綺麗だそうです。



中国および周辺地図



蒼山(チャン サン)

その雲南省大理蒼山には、中国で最も美しい尼寺と賞賛され、芸術的なお寺とも評判の尼寺があり、名は「寂照庵」です。名称の由来は、「感而遂通，寂靜照鑑」に依るもので、「静かに仏の本質を思索する」という意味が込められているそうです。明の時代に建てられ、その後壊されましたが、中華民国のある住職により再建されました。お寺の周囲は松や柏などに囲まれ、とても静かな雰囲気になっています。



一般的な中国のお寺は、広大な面積に立派な建物が数多く並び、蠟燭や線香の煙が立ち込めているイメージですが、「寂照庵」は質素かつコンパクトで、お線香もつけておりません。人々が魅了される理由のひとつは、何とんでも、様々な植物が敷地に溢れる光景でしょう。お寺の敷居をまたぐと、通路の両側にいろいろな植物が植えられているのが目に飛び込んできます。



お寺全体に生き生きと繁茂している植物に圧倒されます。視覚はもちろんですが、嗅覚でも無数の植物の独特な香りに包まれていて楽しめます。それぞれが元気いっぱいの生命力に溢れています。お寺全体に自然の芸術的な雰囲気醸し出されています。



多肉植物の一種である「玉蝶」。握りこぶしより大きな花は、禅意が籠った蓮の花のようで、仏教寺院の「寂照庵」にはとてもお似合いです。



寂照庵はお寺というより、まるで花々のパラダイス。庭、階段、屋根の前、壁の間、目が届く至る処に植物が綺麗に植えられています。ここに咲いている全ての植物は、住職の「妙慧法師」が愛情を込めて育てているそうです。

「寂照庵」は1982年に再建され、1989年「妙慧法師」がここの住職に赴任されました。彼女の努力により、荒廃したお寺が少しずつ蘇生していきました。

お花が大好きである住職は、気に入った花が見つかるたびに、花の種を買って来るそうです。寺の裏庭にビニールハウスを設置し、多肉植物や花々を栽培しています。日々の修業や勉強の狭間に花を育てることは住職の癒しになるようです。尼寺に在籍する他の比丘尼達も植物の世話をするのが大好きです。



「寂照庵」本堂の祭壇の上には、香炉は置いてありません。堂内、あらゆるところに花を飾っていますので、本堂に入った瞬間、清々しい香りが漂っています。大抵の仏教寺院では、線香の匂いが立ち込めていますが、「寂照庵」では年中、花を供えています。

「妙慧法師」の解釈によりますと、「仏は森羅万象、何でも持ち合わせている存在なので、線香を焚く形式に頓着しません。肝心なのは、人々が仏を敬う心こそ大切なのです。」住職はその信念を持って、数十年間、花を供え続けています。

「寂照庵」は、美と禅意が見事に結びついた場所なのでしょう。



植物以外にも、「寂照庵」の建物もなかなかいい味が出ております。建物自体は近在の山で拾ってきた石や、農民たちが寄付した古い木材で、いろいろな工夫してお金をかけずに建てられたそうです。



「寂照庵」は良い環境に包まれているせいか、精進料理も美味しいと評判のようです。多くの人々が噂を聞きつけ、参拝がてら、精進料理を味わうそうです。

当初は、無料で精進料理を提供していたそうですが、あまりに多くの信者や旅行者が訪れるようになった為、運営が継続できるように一人20元（約400円）を徴収することにしたそうです。その後も、暦の1日と15日、週末は無料で提供していましたが、あまりにも訪れる人数が多くなり過ぎて、お寺が受け入れられる範囲を超えてしまったので、週末の無料提供は取り止めて、暦の1日と15日のみ無料で提供しているそうです。



精進料理を食した参拝客の多くが「とても美味しかった」と賞賛しているそうです。住職の話によりますと、「家庭の調理方法で、ごく普通の大衆料理です。炊事担当は専従の料理師ではなくボランティアです。材料には気を遣います。毎朝4時に市場へ食材を買い出しに行き、農家の採れたての食材を買います。虫に食われた野菜、形が多少おかしくても、無農薬栽培の野菜を選びます。」とのこと。お米、ジャガイモ、かぼちゃなどは、お寺から農家に栽培を直接依頼しているそうです。

毎日概ね200~300人が食事しに来るので、住職は告知板を手にし、来客に「食べ物を粗末にせず、食べる分だけ取って、足りないときにまた追加するよう」呼びかけているそうです。もし食べ残す人がいたら、お線香1本が燃え尽きる時間、本堂でひざまずいてもらうことにしているそうです。



精進料理の他、茶室でお茶を飲むのも至福のひとつです。静かで落ち着いた雰囲気の中、ゆっくりと時の流れを味わうのもなかなかいいものです。

長くも短くも感じる「無常」な人生においては、お金持ちになるより、出世するより、内心の平安を保つことが何より大切、という価値観もあります。心が安定すれば、身も軽くなり、将来に向かって余裕を持てる気がして、無欲かつ穏やかに過ごせそうです。

一日一つ良いことを行うように心掛ければ、幸せが近づいて来るかもしれませんね。